

ふれあい活カゆとり

すみだ



左から桜橋、白鬚橋、水神大橋

■桜橋（長さ169.5メートル、幅20メートル）
昭和60（1985）年3月に完成した桜橋は、昭和52年4月に調印された墨田区と台東区の姉妹区提携のシンボルとして架橋され、名称は公募により決定しました。この橋は兩岸の隅田公園を結ぶ隅田川初の歩行者専用橋で、形状は平面のX字形をしています。
架橋10周年に当たる平成7（1995）年3月には、対のモニュメント、「瑞鶴の図」（原画・平山郁夫、彫刻・細井良雄）がX字の交わる場所に設置されました。

これは、隅田川にも飛来した鶴をモチーフとして、21世紀へ向けて力強く飛び立つ姿をイメージしています。墨田区側は「双鶴飛立の図」、台東区側は「双鶴飛天の図」となっています。

■白鬚橋（長さ168.8メートル、幅22メートル）
白鬚橋は、大正3（1914）年、地元住民が設立した「白鬚橋株式会社」が架けた木造で有料の橋で、関東大震災後の昭和6（1931）年に現在の鉄橋に架け替えられました。橋の名は近くにある名社、白鬚神社にちなんでつけられています。

橋の西詰の北側は荒川区、南側は台東区となっており、三区にまたがっています。

この橋については、劇作家の宇野信夫が「はなし帖」（文藝春秋）で、「たしか一銭で、向島側で取っていた。両国の川開きには橋の真ん中へ行くと遠く火花が見えた。火花の時には橋の真ん中に橋銭を取る所がこしらえてあったのを覚えている」と書き残しています。

橋が架かるまでは、この場所は「白鬚の渡し」とか、「橋場の渡し」と呼ばれた渡船場で、桜の名所の向島へ大勢の客を運びました。

■水神大橋（長さ157.0メートル、幅17メートル）
平成元（1989）年3月に架設された水神大橋は、堤通二丁目と対岸の荒川区南千住八丁目を結んでいます。

橋の名は東岸にある隅田川神社（水神宮）にちなんでつけられました。

角柱状の黒御影石の親柱の上部は、川波を表すような白い波型で、その下方にひら仮名で「すいじんおおはし」と刻まれた橋名板と、さくらの花を刻んだ青銅のレリーフがはめ込まれています。

橋の左側の親柱は同型ながら橋名板は漢字で、レリーフは都鳥の飛ぶ姿です。

反対の荒川区側は、親柱は同型ですが、橋名板は墨田区側と反対の配置で、青銅のレリーフも鶴、すすき、月という組み合わせになっています。

途中3か所にはめ込まれた青銅のレリーフも、梅若伝説を物



写真 左・水神大橋 中・白鬚橋 右・桜橋

語るもの、富士や筑波が望めた昔の隅田川の風景を思わせるもの、あるいは桜花などと、歴史的に味わい深い構成です。

当初は歩行者専用橋でしたが、平成8（1996）年7月から自動車道路と共用になりました。

参考 「橋はかたる」
（墨田区教育委員会 昭和58年3月）